03教・内容解説資料

2017年度～用
三省堂国語教科書

明解 国語総合 【改訂版】

A5判・360ページ
評論4教材
随想5教材
小説5教材
詩歌6教材
古文15教材
漢文15教材

■ご案内
教科書の目次　現代文・表現編…1
古典編……2
教科書の特色　現代文・表現編…4
古典編……6
教科書ダイジェスト……8
指導書・教材……30
デジタル教材……32

三省堂

＊この資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

国総 339

三省堂版 国語教科書

★印は平成29年度新刊，☆印は平成30年度新刊です。

国語総合


★ 高等学校国語総合 現代文編［改訂版］ A5判／280ページ 国総 336


★ 高等学校国語総合 古典編［改訂版］ A5判／192ページ 国総 337


★ 精選国語総合 ［改訂版］ A5判／400ページ 国総 338


★ 明解国語総合 ［改訂版］ A5判／360ページ 国総 339

現代文B


☆ 高等学校現代文B ［改訂版］ A5判／440ページ 現B 323


☆ 精選現代文B ［改訂版］ A5判／408ページ 現B 324


☆ 明解現代文B ［改訂版］ A5判／372ページ 現B 325

古典B


☆ 高等学校古典B 古文編［改訂版］ A5判／260ページ 古B 333


☆ 高等学校古典B 漢文編［改訂版］ A5判／184ページ 古B 334


☆ 精選古典B ［改訂版］ A5判／372ページ 古B 335

現代文A


現代文A ［改訂版］ B5判／144ページ 現A 303

古典A


古典A ［改訂版］ B5判／144ページ 古A 306

明解国語総合編集委員

中洌正堯　兵庫教育大学名誉教授
三浦和尚　愛媛大学
太田　亨　愛媛大学
加藤康子　元梅花女子大学
加納諄治　編集者
小助川元太　愛媛大学
高山実佐　國學院大學
田中宏幸　安田女子大学
千葉　聡　横浜市立桜丘高等学校
福田安典　日本女子大学
桝井英人　大阪府立北野高等学校
森下治生　元東京都立文京高等学校
若松伸哉　愛知県立大学

★三省堂教科書・教材サイト
https://tb.sanseido.co.jp　三省堂国語教科書　検索

三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14　☎03(3230)9411(編集)・9556(営業)
●大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3　☎06(6341)2177
●名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F　☎052(953)9211
●九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1　☎092(531)1531・1532
●札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F　☎011(616)8722

現代文・表現編

■ 現代文教材は、定評のある教材と清新な教材をバランスよく配列。平易な文章にして、生徒の思考を促し、心に残る教材をそろえました。

■ 表現教材は、短時間で取り組む活動と、じっくり取り組む活動との二系列で構成。「教室でともに学ぶ」ということを大切にしながら、表現することの楽しさを体験できる活動を配列しました。

＊：本内容解説資料でご紹介するページ

1 随想一
ベトナムのコーヒー屋（角田光代）コミュニケーション
負け方を習得する（内田樹）生き方・考え方
話す・聞く1 自分を印象づけるスピーチ　自分を漢字で表すと？

2 小説一
とんかつ（三浦哲郎）
＊オムライス（宮下奈都）新
＊■ ブックガイド1
＊話す・聞く2 なんて、言っている？

3 詩
シリウス（石津ちひろ）
シジミ（石垣りん）
校庭で（小野十三郎）新
■ ブックガイド2
書く1 隣の友達

4 評論一
魚は陸から離れられない（松浦啓一）自然・環境
海ガメの無念　読み比べ
書く2 情報の読み方・扱い方 新

5 随想二
ツゴイネルワイゼン（黒柳徹子）戦争・平和
書く3 私の発見や変容を伝える　感想文・報告文 新
■ ブックガイド3

6 小説二
バスに乗って（重松清）
なめとこ山の熊（宮沢賢治）新
話す・聞く3 この本を読んでみて！　ブックトーク

7 短歌・俳句
遠い片手　短歌九首
麦わら帽子のへこみ（穂村弘）
■ ブックガイド4
春のオルガン　俳句十二句
書く4 原作と勝負！

8 評論二
水の東西（山崎正和）比較文化
問題解決の心理学（堀井秀之）心理・脳
話す・聞く4 討論ゲームを楽しもう

9 随想三
豊かな仕事言葉（小関智弘）労働・言語 新
「発見」最初は気づかない（福岡伸一）科学・探究 新
書く5 マンガの楽しみ

10 小説三
羅生門（芥川龍之介）
話す・聞く5 新聞を持ち寄って編集しよう　まわし読み新聞 新

11 評論三
届く言葉、届かない言葉（鷲田清一）コミュニケーション
書く6 新聞に投書してみよう　意見文

いつも独りぼっちだった男の子が、ある日公園のベンチで古い本を拾う。そこには、オムライスの作り方が書かれていた。一冊の本をきっかけに男の子が変容していく姿をとおして、何かとつながることの喜びを描く。

だれもいない校庭で、卒業していく生徒たちを思い、「未来という言葉」を思い浮かべる。大阪文学学校を創設し、校長として多くの作家を育てた作者による、教え子への思いあふれる作品。

なめとこ山で熊撃ちをして生きる淵沢小十郎は、殺した熊にも礼儀をつくし、熊の言葉だってわかるような気がした。そんな小十郎が、冬のある日に向かった山で遭遇したできごととは。東北の厳しい自然に生きる、人と動物の交流譚。

挽く、剝る、刳る、刮ぐ、揉む、盗む……。全て工場で鉄を削るときに使う言葉だ。マイクロエレクトロニクス技術の進歩により、自分が削っているという実感を抱きにくい現在、これらの豊かな言葉がどんどん消えている。言葉とともに、ものづくりの大切なものまで失いつつあることに警鐘を鳴らす。

「私たちが今日、発見として知っている多くの事実は、最初それが発見であることすらわからなかった。」生物学者である筆者が、自ら発見した遺伝子GP2にまつわるエピソードをとおして語る。

新聞を持ち寄って、おもしろいと思った記事を切り抜く。グループ内で記事を紹介し合い、台紙に貼りつけて一枚の新聞を作る。シンプルな活動で取り組みやすく、効果的に力のつく表現教材。

古典編

■ 国語総合で読んでおきたい作品を厳選して収録。図版や写真を盛り込んだり、丁寧な注釈をつけたりするなど、古典を抵抗なく読み進められるように配慮しました。

■ 豊富なコラムを設け、古典の世界により親しみがもてるようにしました。

古文

古典の響き
竹取物語・枕草子・平家物語・徒然草・奥の細道・春暁・論語

1 古文入門
古文の世界へ
＊児のそら寝（宇治拾遺物語）
検非違使忠明（宇治拾遺物語）
＊古文のとびら1 歴史的仮名遣い・古語の意味と形

2 随筆
徒然草
公世の二位のせうとに
高名の木登り
丹波に出雲といふ所あり 新
枕草子
五月ばかりなどに
にくきもの
方丈記
ゆく河の流れ 新

3 物語
コラム 三大随筆
古文のとびら2 助動詞・助詞・係り結び
伊勢物語
芥川
筒井筒
「筒井筒」について
—『恋する伊勢物語』より—（俵万智）
コラム 平安時代の結婚

4 和歌
うたう心
万葉集
古今和歌集
新古今和歌集
コラム 三大歌集
古文のとびら3 和歌の修辞

5 軍記
平家物語
木曾の最期
古文のとびら4 敬語
＊コラム 源氏物語の世界へ

古典文法の要点
1 用言の活用
2 助動詞・助詞

漢文

1 漢文入門
漢文の世界へ
故事成語
＊虎の威を借る
蛇足
コラム 故事成語と遊説家

2 漢詩
漢詩の世界
静夜思（李白）
勧レ酒（于武陵）
涼州詞（王翰）
江南春（杜牧）
月夜（杜甫）
香炉峰下、新卜二山居一、草堂初成、偶題二東壁一（白居易）
コラム 日本人と唐詩
漢文のとびら 漢詩の形式

3 語録
論語の言葉
学問
生き方
人との関わり
コラム 孔子の人生

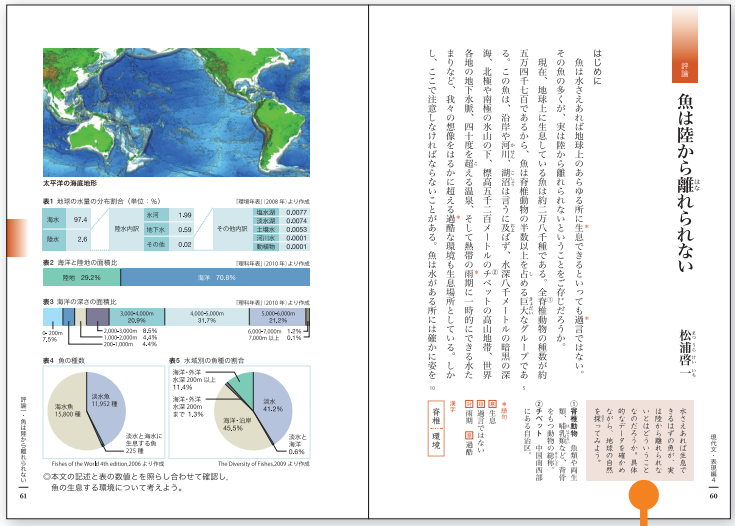
4 史話
史話を読む 「三国志」の人々
蓋頭上題二合字一（世説新語）
前有二大梅林一（世説新語）
死諸葛走二生仲達一（十八史略）
コラム 三国志を楽しもう

訓読のきまり
文学史年表
漢文参考略年表
漢文の基本形式
常用漢字表・付表
古典の中の植物・古典の中の色
装束
住居・調度
時刻・方位・干支表・月の異名・陰暦月齢表
旧国名・都道府県名対照図
平安京条坊図・内裏・大内裏
京都付近地図・奈良付近地図
中国参考地図

資料編

＊原稿用紙の使い方
手紙の書き方
情報の収集と発信
話し合いの方法
表現テーマ例集
古典文法要覧
◉単語の分類
◉動詞活用表（文語・口語）
◉形容詞活用表（文語・口語）
◉形容動詞活用表（文語・口語）
◉文語助動詞活用表
◉文語助詞の分類
古文重要語句 新

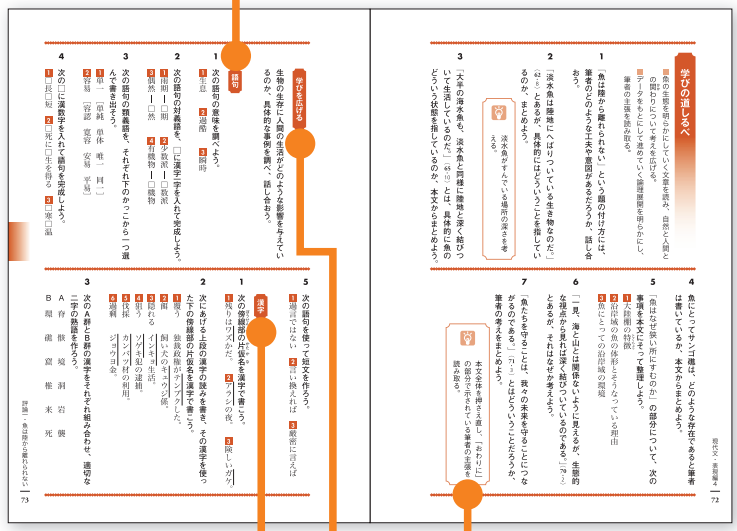
教科書の特色　現代文・表現編



着実に読む力をつける「学びの道しるべ」

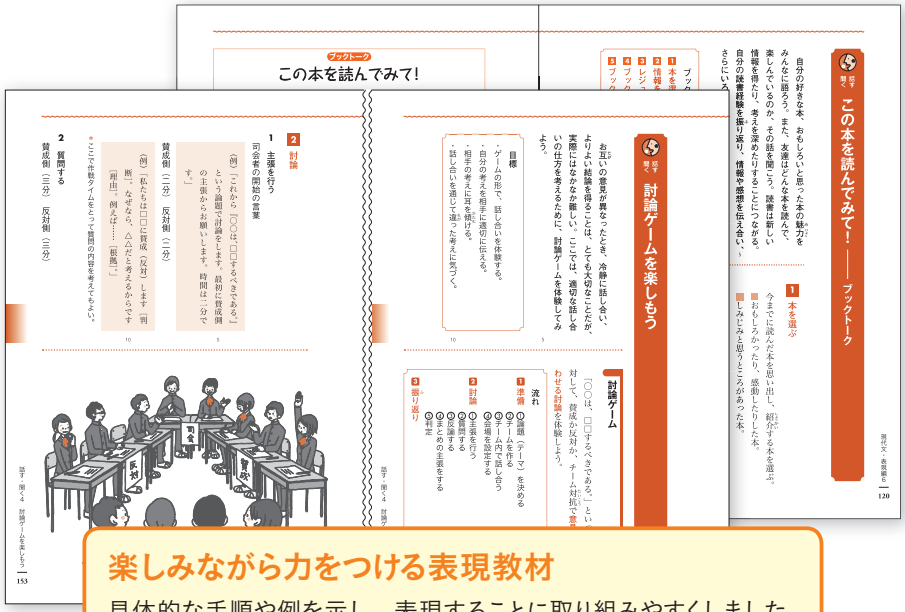
教材の目標と学習のねらいに合わせて具体的な課題を設定し，文脈に沿って読み進められる学習の手引きです。

教材への興味を引き出し、見通しをもって読み進められるよう、リード文をつけました。



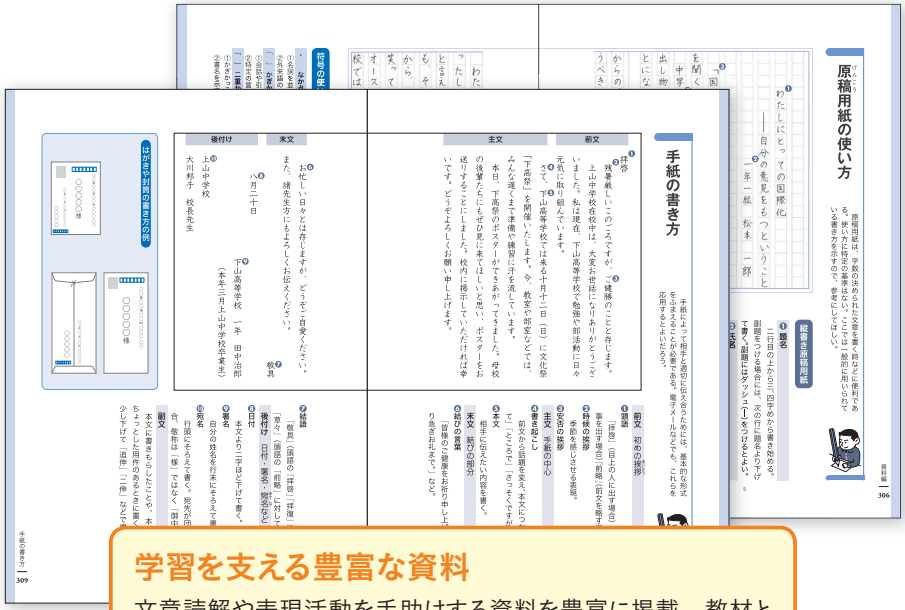
学習をより深めるため、調べたり話し合ったりする活動を設けました。

必要に応じて、読み方・考え方の手がかりとなる「ヒント」を示しました。



楽しみながら力をつける表現教材

具体的な手順や例を示し，表現することに取り組みやすくしました。楽しんで活動しながら，実生活に生きる力を身につけます。

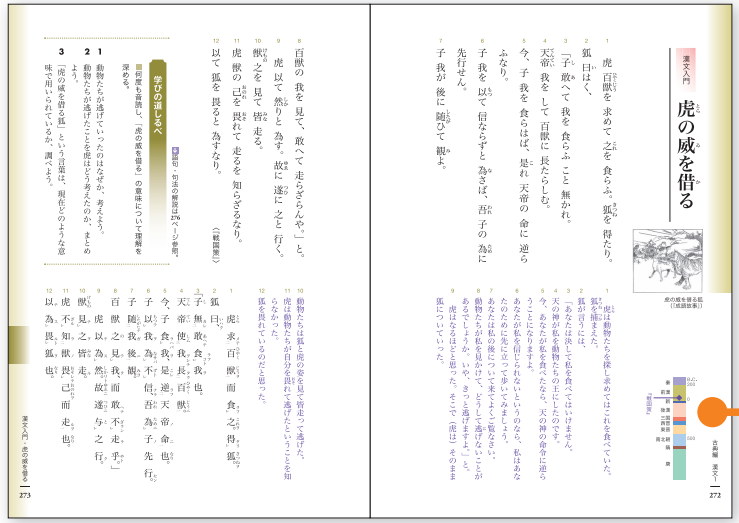


学習を支える豊富な資料

文章読解や表現活動を手助けする資料を豊富に掲載。教材と関連させながら活用することで，総合的な言語力を高めます。

教科書の特色　古典編

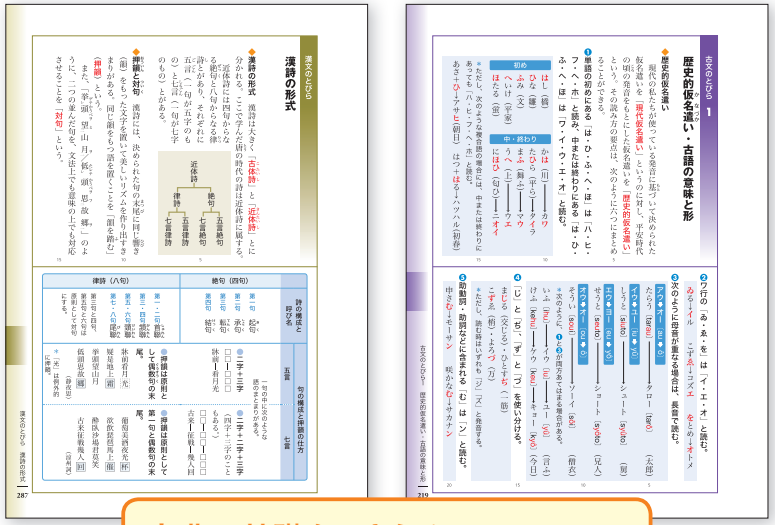




成立年代バー
文学史におけるその作品の位置がひとめでわかります。

中学からの接続を意識した入門単元

中学での学習から無理なく接続できるよう，段階的に単元を設定。入門単元では，本文を分かち書きにして現代語訳と対照させ，抵抗なく読み進められるようにしました。



古典の基礎をおさえるコラム

古典の言葉に興味がもてるよう，文法や形式をわかりやすく解説しました。



古典の世界に親しむコラム

古典の世界と現代とのつながりが感じられる話題などを扱ったコラムを随所に設定しました。

小説

オムライス

宮下奈都（みやしたなつ）

現代文編は、清新で魅力あふれる教材を発掘し、定評ある教材とともに配列。生徒が興味・関心をもって、主体的に考えたり、思いを深めたりすることができるようにしました。

母親が仕事から帰るのを待つ間、いつも独りぼっちで過ごす男の子が、ある日公園で古い本を拾う。この本が男の子にもたらしたものとは何か。

各教材の冒頭には，学習の見通しを立てたり，学習意欲をもったりすることができるよう，リード文を置きました。

その公園で男の子はいつも独りぼっちでした。アパートの部屋にいると、向かいの公園から子どもたちのにぎやか*な声が聞こえてきて、誘われたような気がするのです。それでつい出かけていくのですが、ただ黙ってベンチに座っているだけでは誰（だれ）も声をかけてくれることはありません。子どもたちはみんなそれぞれ自分たちのことに夢中*でした。

しばらくそうして座っていてから、暗くなる前に部屋に帰ります。灯（あか）りをつけ、お米を研ぎ、母の帰りを待つのでした。母はとても優しいけれど、いつも忙（いそが）しくてつかれているように見えました。

ある夕方、公園のベンチで本を拾いました。古い本のようでした。ちょっとページをめくってみて、それからまた元の場所に戻（もど）しました。興味*を引かれるような本ではありませんでした。白黒の写真と文字ばかりで、ところどころに茶色い染みがついていました。

本を置いたのとは反対の端（はし）に腰（こし）をかけ、楽しそうに遊ぶ子どもたちをぼんやりと見ていました。滑（すべ）り台や砂場の女の子たち、走りまわる男の子たち。いつか誰かが入れてくれるかもしれない。何してるの、遊ぼ、って誘ってくれるかもしれない。男の子はその時のことを思うとどきどきしました。

一人帰り、二人帰り、最後の一人になる前に急いでベンチを立ちます。公園を最後に出る時ほど心細くなる時はありません。ふと、さっきの本がベンチに残されるのがかわいそうになりました。誰かが拾ってくれるような立派な本には見えませんでした。男の子はさっと本を取り、夕暮れの中をアパートに向かって駆（か）けだしました。

きれいな絵のついた本がよかった。白黒の本なんてつまらない。汚（よご）れているし、折れているし。本当はそう思っていました。でも、部屋には夜に向かって時間ばかりがぼうぼうと繁（しげ）っていました。男の子はまだまだ独りでした。それで、拾った本をあてずっぽう*に開き、そこに大きく書かれていた文字を読んだのです。

＊語句
- 対 にぎやか
- 類 夢中
- 意 興味を引く
- 意 あてずっぽう

漢字
- 誘う
- 研ぐ
- 染み
- 黙る
- 優しい

脚注欄には，重要な語句と漢字を抜き出して示し，意味や類義語・対義語を調べたり，短文を作ったり，漢字の使われ方を確かめたりすることで，語彙を広げられるようにしました。

オ、ム、ラ、イ、ス。

その横に、作り方、と書いてあります。ざぶんと川に飛び込んだような楽しい驚きでした。つまり、ここに書かれているとおりに作ればオムライスができるということなのです。ぼくにもオムライスが作れるかもしれない、と思うと居ても立ってもいられず、思わず*冷蔵庫から卵を取り出していました。

途中で母が帰ってきても、男の子は、お帰りなさい、と声をかけただけでした。いつもなら飛びついていくのに、コンロの前を離れるわけにはいかなかったのです。

二時間もかかってでこぼこしたオムライスができあがった時、男の子はまだ川の中で泳いでいるような気分でした。どうにか一人でオムライスを完成させた昂ぶりと*疲労、しかし思ったようなヒヨコ色には仕上がらなかった*無念、包丁で切ってしまった左手の中指の痛み、いよいよオムライスのお皿を母の前に差し出す時の*緊張。いろんな気持ちの波にもまれ、足もと*がおぼつかなくなりそうでした。

「……おいしいよ。」

母はそう言ったきりでした。でも、そのひと言で十分だったのです。ぽろぽろと母のこぼす涙が男の子の*胸にしみました。どうして泣いているのか、聞きたいようで聞きたくないようで、胸の中にはやっぱりさざ波が立っているのでした。

それからは夕方まで公園のベンチに座ることも、部屋でただぼうっと母の帰りを待つこともなくなりました。拾った本を何度も読み、夢中で繰り返しオムライスを作りました。

いくら気をつけても焦げたり破けたりしていた卵の皮が、突然、ふわふわのとろとろに仕上がった日のことは忘れられません。すぅごくおいしい！　と*目を丸くした母の笑顔より、男の子のほうがもっと弾んだ顔をしていました。おいしいものを作ってもらうよりも作ってあげられるほうが、もしかしたらうれしいのかもしれません。

とびきりのオムライスを作れるようになって、独りであることを忘れました。玉葱の皮を剝きながら、ボウルで卵をかき混ぜながら、わくわくしています。玉葱と卵とつながっているような気持ち、あるいは玉葱や卵を通して誰かとつながるような気持ち、でしょうか。誰とつながっているのかは、よくわかりません。母とはもちろん、この料理本を書いた人とも、この本の以前の持ち主とも、そし

＊語句
短 思わず
対 疲労
意 無念
対 緊張
意 おぼつかない
意 胸にしみる
意 目を丸くする

漢字
離れる　涙
繰り返す　焦げる
突然　弾む

ておいしいものを作ろうとしたり作られたりしている全ての人とも、*ひっそりとゆるやかにつながっているような気がしています。

でも、なんといっても、男の子がいちばん深くつながっているのだと実感した相手は男の子自身でした。台所に立つと、なぜだか身体と気持ちの輪郭がぴたっと合って、*一分の隙もなく自分自身とつながった喜びが満ちてくるのです。たとえ部屋に独りでいてももうだいじょうぶ。オムライスの次には何を作ろうか、考えるだけで力がわいてくるようなのでした。

〈出典『はじめからその話をすればよかった』（二〇一三）〉

＊語句
短 ひっそり（と）
意 実感する
意 輪郭
意 一分の隙もない

■**宮下奈都**　作家　［一九六七年―］　福井県の生まれ



普通の人々の日常生活を作品の主な舞台として取り上げ、そこで揺れ動く登場人物の心情をみずみずしい筆致で描き、注目を集める。長編小説『スコーレNo.4』のほか、小説に『遠くの声に耳を澄ませて』『よろこびの歌』『誰かが足りない』など。

教材の目標を明示し、内容を理解し、言葉の力をつけるための具体的な学習課題を設定しました。

学びの道しるべ

■公園で拾った本が男の子の心情にもたらした変化について考える。

■小説中の表現の特徴を捉え、その表現に託された男の子の心情を明らかにする。

1 **主人公の男の子が置かれている状況についてまとめてみよう。**

2 **「ぽろぽろと母のこぼす涙が男の子の胸にしみました。どうして泣いているのか、聞きたいようで聞きたくないようで、……」（42・15）の場面における母と男の子のそれぞれの思いについて話し合おう。**

3 **次の比喩的な表現から読み取れる男の子の心情を考えよう。**

1 「部屋には夜に向かって時間ばかりがぼうぼうと繁っていました。」（41・13）

2 「ざぶんと川に飛び込んだような楽しい驚きでした。」（42・2）

3 「男の子はまだ川の中で泳いでいるような気分でした。」（42・9）

4 **オムライスを初めて作った前と後、さらにとびきりのオムライスを作れるようになった後では、男の子の心情はどのように変化したか、簡潔にまとめてみよう。**

5 **「なぜだか身体と気持ちの輪郭がぴたっと合って、一分の隙もなく自分自身とつながった喜びが満ちてくるのです。」（44・4）という場面における男の子の心情について具体的に説明しよう。**

学びを広げる

他の人や自分自身とつながるということについて、この小説を読んで考えたことを話し合おう。

読んで学んだことを表現に結びつけ、学習を広げたり深めたりする学習活動を設定しました。

脚注欄に示した語句や漢字を定着させるための学習課題を設定しました。

語句

1 次の文の（　）内にあてはまる語句を、後の語群から選んで完成させ、それぞれの意味を確かめよう。

1 興味を（　）。
2 胸に（　）。
3 一分の（　）。

［しみる　隙もない　引く］

2 次の1～2について対義語を調べよう。また3の類義語をいくつかあげてみよう。

1 にぎやか　2 緊張　3 夢中

3 次の語句を使って短文を作ろう。

1 思わず　2 ひっそり（と）

漢字

1 次の傍線部の片仮名を、漢字と送り仮名で書こう。

1 包丁をトグ。
2 壁紙のシミ。
3 その場をハナレル。
4 糸をクル。
5 焼き魚がコゲル。
6 球がハズム。

2 次の漢字を使った熟語を調べ、書き出そう。

1 誘　2 黙　3 優

3 「突然」のように、末尾に「然」のつく熟語を調べ、それぞれの意味を確かめてみよう。

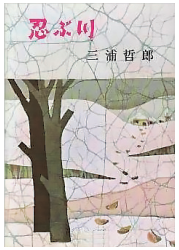
各教材の学習を広げ深めるため，作者やテーマと関わる本を豊富に紹介しています。

ブックガイド 1



さがしもの……角田光代

学生時代に売った古本と世界各地で思わぬ再会をはたす「旅する本」など、本をめぐってくり広げられる九つの物語。



忍ぶ川……三浦哲郎

複雑な家庭環境の二人が出会い、貧しさの中で結ばれた愛を描いて芥川賞を受賞した表題作の他、六編の小説を収録。



降り積もる光の粒……角田光代

筆者の「旅好きだけど、旅慣れない」スタイルで出会った人やできごとなど、旅にまつわる記憶をつづった随想集。



ユタとふしぎな仲間たち……三浦哲郎

東北の山あいの村に転校した少年、村の子どもたちになかなかなじめずにいたが、ある日座敷わらしたちと出会った。



今日もごちそうさまでした……角田光代

どんな時も、ご飯の時間にきっちりご飯を食べてきた。筆者の食べ物への思いが詰まった随想集。



完本短篇集モザイク……三浦哲郎

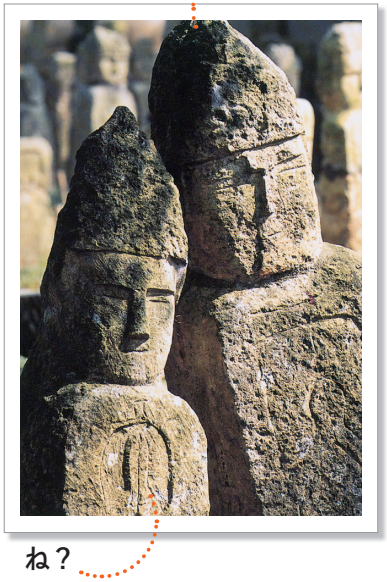
若い頃から「短篇作家」を志した作者が、百編をめざして書きつづった短編集。「とんかつ」など六十二編を収める。

話す 聞く なんて、言っている?

楽しみながら表現する力を養えるよう、生徒が興味・関心をもてる題材を取り上げ、具体的な手順や例を示し、学習に取り組みやすくしました。

写真を見て、想像力をはたらかせ、言葉にしてみよう。例にならって、左ページのそれぞれの石仏がなんと言っているのか、「せりふ」を考えてみよう。

例

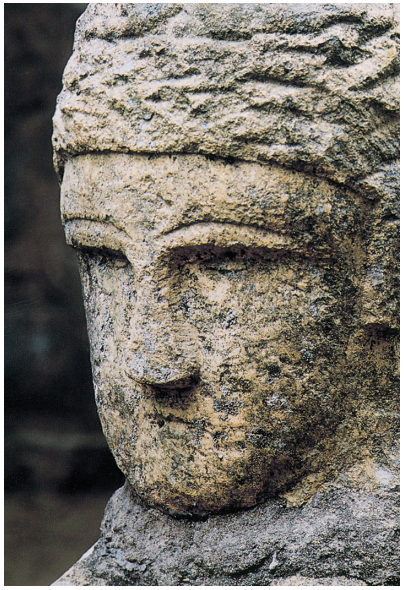




流れ

1. 写真を選び、「せりふ」を考える。
2. 選んだ写真と、考えた「せりふ」を発表する。発表する時は、「せりふ」にふさわしい言い方を工夫する。
3. 写真を印刷したカードに「せりふ」を書き込み、カードを集めて展示しても楽しい。


B


A


C

古典編のはじめに、よく知られた古典作品の冒頭部分を掲載。繰り返し音読することで、古典の美しい言葉の響きを味わうことができるようにしました。

古典の響き



今、私たちは、古典をとおしてはるかな昔に生きた人々に向き合おうとしています。古典には美しい言葉の響きがあります。その響きによく注意して、次の文章を繰り返し声に出して読んでみましょう。

今は　昔、竹取の翁と　いふ　者　ありけり。
野山に　まじりて　竹を　取りつつ、
よろづの　ことに　使ひけり。
名をば、さぬきの造となむ　いひける。
その　竹の　中に、もと　光る　竹なむ　一筋
ありける。

今となっては昔のことだが、竹取の翁という者がいた。
野山に分け入って竹を取っては、
いろいろなことに使っていた。
名は、さぬきの造といった。
その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。

あやしがりて、寄りて　見るに、筒の　中
光りたり。

（「竹取物語」）

不思議に思って、近寄って見ると、筒の中が光っている。

春は　あけぼの。やうやう　白く　なりゆく
山ぎは、少し　あかりて、
紫だちたる　雲の　細く　たなびきたる。
夏は　夜。月の　ころは　さらなり、闇も
なほ、蛍の　多く　飛びちがひたる。
また、ただ　一つ　二つなど、ほのかに
うち光りて　行くも　をかし。
雨など　降るも　をかし。

（清少納言「枕草子」）

春はあけぼの（がよい）。だんだん白くなっていく山際が、少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている（のがよい）。
夏は夜（がよい）。月のある頃は言うまでもなく、闇夜でもやはり、蛍が多く乱れ飛んでいる（のはよい）。
また、（蛍が闇の中を）ほんの一つ二つなど、ほのかに光って飛んでいくのも趣がある。
雨などが降るのも風情がある。

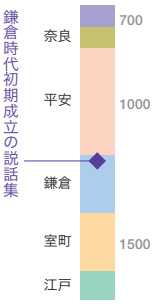
古文の入門教材では、本文の流れに沿って理解しやすいよう、現代語訳を積極的に取り入れるとともに、丁寧な注釈を示しました。

古文入門

児のそら寝

宇治拾遺物語

教材名の下に「成立年代バー」をおき、ひとめで作品の成立時期がわかるようにしました。



今は①昔、②比叡の山に③児ありけり。僧たち、④よひの*つれづれに、

「*いざ、かいもちひ*せむ。」

と言ひけるを、この児、心寄せに聞きけり。さりとて、し出ださむを待ちて寝ざらむも、*わろかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝たる由にて、出でくるを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

今となっては昔のことだが、比叡山（延暦寺）に児がいた。（ある日）僧たちが、宵の手持ちぶさたな時に、

「さあ、ぼた餅を作ろう。」

と言ったのを、この児は、期待して聞いた。そうかといって、作りあげるのを待って寝ないでいるのも、きっとよくないだろうと思って、（部屋の）片隅に寄って、寝たふりをして、できあがるのを待っていたところ、もう作りあげた様子で、（僧たちが）集まってがやがや騒ぎ合っている。

この　児、さだめて　*おどろかさむずらむと待ちゐたるに、僧の、

「⑤もの申しさぶらはむ、*おどろかせたまへ。」

と　言ふを、うれしとは　思へども、ただ　一度に


延暦寺


児（「法然上人絵伝」鎌倉時代）

この児は、きっと（誰かが私を）起こそうとするだろうと待っていたところ、（一人の）僧が、

「もしもし、目をお覚ましなさいませ。」

と言うのを、うれしいとは思うけれど、たった一度（呼ばれただけ）で

①**今は昔**　説話の語り出しによく使われる表現。

②**比叡の山**　京都府と滋賀県の県境にある比叡山。ここでは、比叡山にある延暦寺を指す。

③**児**　学問や行儀見習いのために寺院に預けられていた貴族や武士などの子弟。

④**よひ**　宵。日没から夜中までの時間。当時の僧侶は、正午前に食事をしてあとは食事をしないことが多かった。

⑤**もの申しさぶらはむ**　「物を申しましょう」と丁寧に呼びかけるときの言葉。もしもし。

＊語句

つれづれ・いざ・わろし・おどろかす・おどろく

返事をするのも、待っていたのかと（僧たちが）思うといけないと考えて、もう一度呼ばれて（から）返事をしようと、じっと我慢して寝ているうちに、

「おい、お起こし申しあげるな。幼い人は寝入ってしまわれた。」

と（僧たちの）言う声がしたので、ああ、困ったと思って、もう一度、起こしてくれよと、思いながら寝て聞いていると、むしゃむしゃと、ただひたすらに（ぼた餅を）食べる音がしたので、（児は）どうしようもなくて、長い時間がたったあとに、

「はい。」

と返事をしたので、僧たちは笑うことはなはだしい。

＊いらへむも、待ちけるかともぞ⑥＊思ふとて、いまひところ呼ばれて　いらへむと、＊念じて　寝たるほどに、

「や、な⑦＊起こし＊奉りそ。をさなき　人は、寝入りたまひにけり。」

と　言ふ　こゑの　しければ、あな、＊わびしと思ひて、いま　一度、起こせかしと、思ひ⑧寝に聞けば、ひしひしと、ただ　食ひに　食ふ　音のしければ、すべなくて、無期の　のちに、

「えい。」

と　いらへたりければ、僧たち　笑ふ　こと限りなし。

（巻第一　十一）

学びの道しるべ

■歴史的仮名遣いに注意しながら音読し、児と僧たちの思いを読み取る。

1　歴史的仮名遣いに注意して本文を音読しよう。

2　児はなぜ「寝たる由」（212・上6）をしたのか、そのあとの文章を読んで考えよう。

3　最後で、僧たちが笑ったのはなぜか、考えよう。

4　児と僧たちとのやりとりを読んでみて、現代の私たちと変わらないと思うところはないか、話し合おう。

⑥もぞ思ふ　思うといけない。「もぞ」は悪いことを予想して心配しているときに使う表現。

⑦な起こし奉りそ　お起こし申しあげるな。「な……そ」は禁止の意味を表す。

⑧思ひ寝　何かを思いながら寝ていること。

＊語句
いらふ・もぞ・念ず・な（……そ）・奉る・わびし

宇治拾遺物語　うじしゅういものがたり

説話集。編者未詳。鎌倉時代初期の成立といわれ、百九十七の説話を収める。仏の功徳や高僧の逸話などの仏教説話のほか、昔話や笑い話なども収められており、平安時代から鎌倉時代にかけての人々の生活をうかがうことができる。本文は『新編日本古典文学全集』によった。

古典学習に必要な基本的事項について解説したコラム「古文のとびら」「漢文のとびら」を設けました。

古文のとびら 1

歴史的仮名遣い・古語の意味と形

◆**歴史的仮名遣い**

現代の私たちが使っている発音に基づいて決められた仮名遣いを「**現代仮名遣い**」というのに対し、平安時代の頃の発音をもとにした仮名遣いを「**歴史的仮名遣い**」という。その読み方の要点は、次のように六つにまとめることができる。

❶単語の初めにある「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ」と読み、中または終わりにある「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「ワ・イ・ウ・エ・オ」と読む。

初め

はし（橋）
ひな（雛）
ふみ（文）
へいけ（平家）
ほたる（蛍）

中・終わり

かは（川）——→カワ
たひら（平ら）——→タイラ
まふ（舞ふ）——→マウ
うへ（上）——→ウエ
にほひ（匂ひ）——→ニオイ

＊ただし、次のような複合語の場合には、中または終わりにあっても「ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ」と読む。

あさ＋ひ→アサヒ（朝日）　はつ＋はる→ハツハル（初春）

❷ワ行の「ゐ・ゑ・を」は「イ・エ・オ」と読む。

ゐる→イル　こずゑ→コズエ　をとめ→オトメ

❸次のように母音が重なる場合は、長音で読む。

アウ➡オー〔au➡ô〕
たらう〔tarau〕——→タロー〔tarô〕（太郎）

イウ➡ユー〔iu➡yû〕
しうと〔siuto〕——→シュート〔syûto〕（舅）

エウ➡ヨー〔eu➡yô〕
せうと〔seuto〕——→ショート〔syôto〕（兄人）

オウ➡オー〔ou➡ô〕
そうい〔soui〕——→ソーイ〔sôi〕（僧衣）

＊次のように、❶と❸が両方あてはまる場合がある。
いふ〔ihu〕——→イウ〔iu〕——→ユー〔yû〕（言ふ）
けふ〔kehu〕——→ケウ〔keu〕——→キョー〔kyô〕（今日）

❹「じ」と「ぢ」、「ず」と「づ」を使い分ける。

まじる（交じる）・ひとすぢ（一筋）
こずゑ（梢）・よろづ（万）

＊ただし、読む時はいずれも「ジ」「ズ」と発音する。

❺助動詞・助詞などに含まれる「む」は「ン」と読む。

申さむ→モーサン　咲かなむ→サカナン

古典への理解を深めたり，現代との関わりを考えたりすることができるコラムを随所に設けました。

源氏物語の世界へ

いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれてときめきたまふありけり。

訳　いつの時代のことであろうか、帝の周辺に女御や更衣などの女性が大勢いる中に、身分は高くない方で、ずばぬけてすばらしく、帝に愛された女性（＝桐壺の更衣＝光源氏の母）がいた。

『源氏物語』は今から約千年前に書かれた物語である。作者は紫式部。主人公・光源氏は、桐壺帝と桐壺の更衣との間に生まれ、容姿、才能に恵まれた皇子でありながら、源氏姓を与えられて臣に下った。紫の上や夕顔などとの多くの恋愛を繰り広げながら、臣としての地位を極めたが、後には出家を志す光源氏。彼と、彼を取り巻く人々の生きる姿、また、源氏死後の子孫たちの行方を、五十四の巻に仕立て、恋を中心に織りなした古典の名作である。

時を経て愛され続けた『源氏物語』だが、五十四帖にも及ぶこの大長編は、簡単には読み通せない。そこで、古くから多くの注釈や訳本が作られてきた。今では大和和紀『あさきゆめみし』などの漫画化もあり、また、二十以上の言語に翻訳され、日本のみならず世界中にファンがいる。現代語訳でも漫画でも、一度読み通して、「后の位も何にかはせむ。」と菅原孝標女に憧れを抱かせたほどの、世界に通用する魅力を感じてみてはどうだろうか。



少年時代の光源氏と藤壺の女御、桐壺帝。
光源氏は、藤壺に亡き母桐壺の更衣の面影を見る。
（大和和紀『あさきゆめみし 1』より）

漢文の入門教材では、本文の流れに沿って理解しやすいよう、書き下し文と現代語訳を積極的に取り入れました。

漢文入門

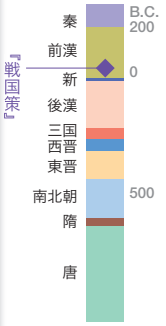
虎の威を借る

1 虎 百獣を 求めて 之を 食らふ。狐を 得たり。
2 狐 曰はく、
3 「子 敢へて 我を 食らふ こと 無かれ。
4 天帝 我を して 百獣に 長たらしむ。
5 今、子 我を 食らはば、是れ 天帝の 命に 逆らふなり。
6 子 我を 以て 信ならずと 為さば、吾 子の 為に 先行せん。
7 子 我が 後に 随ひて 観よ。



虎の威を借る狐（『成語故事』）

教材名の下に「成立年代バー」をおき、ひとめで作品の成立時期や作者の活動時期などがわかるようにしました。



1 虎は動物たちを探し求めてはこれを食べていた。
2 狐を捕まえた。
3 狐が言うには、
4 「あなたは決して私を食べてはいけません。
5 天の神が私を動物たちの王にしたのです。
6 今、あなたが私を食べたなら、天の神の命令に逆らうことになりますよ。
7 あなたが私を信じられないというのなら、私はあなたのために先に立って歩いてみましょう。
8 あなたは私の後について来てよくご覧なさい。
9 動物たちが私を見かけて、どうして逃げないことがあるでしょうか。いや、きっと逃げますよ。」と。
10 虎はなるほどと思った。そこで（虎は）そのまま狐についていった。

8 百獣の 我を 見て、敢へて 走らざらんや。」と。
9 虎 以て 然りと 為す。故に 遂に 之と 行く。
10 獣之を 見て 皆 走る。
11 虎 獣の 己を 畏れて 走るを 知らざるなり。
12 以て 狐を 畏ると 為すなり。

〈『戦国策』〉

語句・句法の解説は276ページ参照。

学びの道しるべ

■何度も音読し、「虎の威を借る」の意味について理解を深める。

1 動物たちが逃げていったのはなぜか、考えよう。

2 動物たちが逃げたことを虎はどう考えたのか、まとめよう。

3 「虎の威を借る狐」という言葉は、現在どのような意味で用いられているか、調べよう。

1 虎 求二百獣一而 食レ之。得レ狐。
2 狐 曰、
3 「子 無二敢 食レ我 也。
4 天帝 使二我 長二百獣一。
5 今、子 食レ我、是 逆二天帝 命一也。
6 子 以レ我 為レ不レ信、吾 為レ子 先 行。
7 子 随二我 後一観。
8 百獣之 見レ我、而 敢 不レ走乎。」
9 虎 以為レ然。故 遂与レ之 行。
10 獣 見レ之 皆 走。
11 虎 不レ知レ獣 畏レ己 而 走一也。
12 以為レ狐 畏レ也。

10 動物たちは狐と虎の姿を見て皆走って逃げた。
11 虎は動物たちが自分を畏れて逃げたということを知らなかった。
12 狐を畏れているのだと思った。

資料編には，学習に役立つとともに，実生活に生きる資料を掲載しました。

原稿用紙の使い方

原稿用紙は、字数の決められた文章を書く時などに便利である。使い方に特定の基準はない。ここでは一般的に用いられている書き方を示すので、参考にしてほしい。



❶わたしにとっての国際化

❷一年一組　松本　一郎

――自分の意見をもつということ

❸「国際化」とか「国際人」とかいうことばを聞くと、思い出す話がある。

❼中学一年のホームルームの時間、文化祭の出し物の決め方が安易に「多数決」ということになりそうになったとき、オーストラリアからの帰国生だけが❺「みんなでもっと話し合うべきだ。」と反対した。

わたしは、そんなことは考えたこともなかったし、みんなの前で自分の考えをはっきりと言えるその子がとてもステキに見えた。でも、その子の日本語がちょっとおかしかったから、みんなといっしょにわたしもゲラゲラ笑ってしまった。けれども、その子はずっとオーストラリアで暮らしていたわけだし、学校ではいつも英語を話していたというから、

縦書き原稿用紙

❶題名
二行目の上から三、四字めから書き始める。副題をつける場合には、次の行に題名より下げて書く。副題にはダッシュ（―）をつけるとよい。

❷氏名
題名の次の行か一行あけた行に書く。終わりを下から一、二字分あける。

❸書きだし
本文は、氏名の次の行か一行あけた行から書き始める。最初の一字分をあける。行を改めて新しい段落にする時も、最初の一字分をあける。

❹句読点・符号
句読点（。・、）やかっこ（「　」・『　』・（　）・〈　〉など）、疑問符（？）、感嘆符（！）などの符号類は、それぞれ一字分使う。疑問符、感嘆符のあとに文を続ける場合は、一字分あける。ダッシュ（―）や点線（…）は二字分使う。

❺会話文
かぎかっこ（「」）で囲む。

❻引用文
一、二行程度の短いものは、かぎかっこ（「」）で囲む。長いものは改行して引用文全体を二字程度下げて書く。

❼数字・アルファベット
数字は、縦書きの場合、漢数字を用いるのが原則。

横書き原稿用紙

縦書きに準じるが、次のような違いがある。

❶読点の代わりにコンマ（,）を用いることがある。

❷数字は、算用数字を用いるのが原則。「一般的」「一つ」「二つ」のような場合は漢数字を用いる。

符号の使い方

・　なか点・なかぐろ
①名詞を並列する
②外来語の句切れ・日付などを示す

「」　かぎかっこ
①会話や引用を示す
②特定の言葉を強調する

『』　二重かぎ
①かぎかっこの中でかぎかっこを使う
②書名を示す

（）　かっこ
言葉を補足する内容などを加える

―　ダッシュ
①言い換えを示す　②間を示す

…　点線
①省略を示す　②余韻を示す

～　波形
時・場所などの「○○から△△まで」を示す

指導書・教材

■指導書には、教材研究や評価に活用できる資料はもちろん、ワークシート・テスト問題・補充教材などを豊富に収録しました。

■「主体的・対話的に学びを深める活動案」を新設し、アクティブ・ラーニングの視点を生かした指導例を示しました。

指導書

本体価格二四、〇〇〇円（税別）

■**指導資料**
教材研究に役立つ資料や、実際の授業や評価で活用できる情報を豊富に掲載しています。

■**発問例集**
指導資料に掲載した発問をまとめたデータを収録しています。

■**ワークシート**
- 学びの道しるべシート
- 構成・内容理解シート
- 語句・漢字シート
- 本文漢字シート
- 本文語句シート
- 表現活動シート
- 古文品詞分解シート

■**基本テスト**
短時間で基礎を養う小テスト。現代文編では漢字や語句、古文では文法、漢文では句法などについて出題します。

■**評価問題**
定期考査などに使える問題を、各教材、難易度別に複数収録しています。

■**補充教材**
教科書の教材に関連する資料や、発展的に読むことができる作品などを収録しています。

■**教科書原文**
教科書教材文の原文データを収録しています。



指導書別売品

■**教師用教科書**　本体価格五、〇〇〇円（税別）
指導書の「教師用教科書」と同じものです。

■**指導資料ＰＤＦ版**　本体価格五、〇〇〇円（税別）
指導書の「指導資料」の紙面をＰＤＦデータにしたものです。

■**朗読ＣＤ**
一部の教材について、朗読を収録した音声ＣＤです。

■**漢文エディタ**
訓読文や漢文テストの問題文を編集するためのソフトです。

■**学習課題ノート**
別売の生徒用教材『学習課題ノート』のデータを同梱しています。

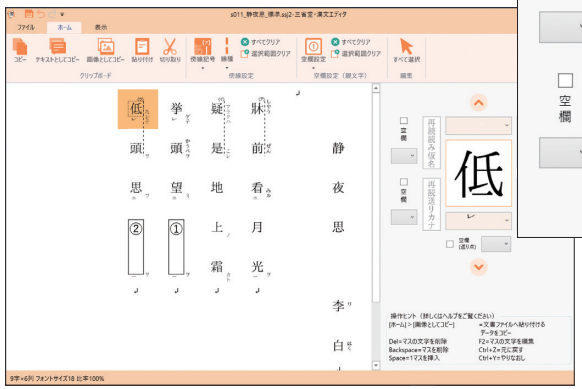
■**教師用教科書**
教科書の紙面に、文章構造や要約、口語訳や文法の解説、「学習の手引き」の解答例など、授業に役立つ情報を青字で刷り込んだものです。

生徒用教材

■**学習課題ノート**　本体価格六〇〇円（税別）
教科書準拠のワークブックです。別冊解答には、自習にも使える詳しい解説が付いています。



◀訓点の編集



「漢文エディタ」

デジタル教材

指導者用デジタルテキスト

はじめに

●教科書の内容を最大限に活用すること

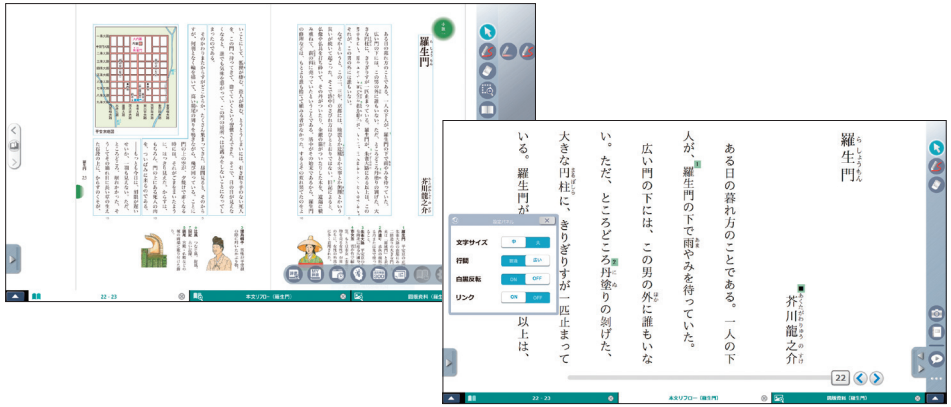
デジタルテキストでは，教科書本文の拡大提示，付録や図版資料のインデックスおよびその拡大提示など，教科書の内容を提示用の素材として，最大限に活用することをコンセプトに製作いたしました。

●CoNETSビューア

平成29年度版からは教科書会社14社が参画して開発した共通プラットフォームCoNETSビューアでのご利用になります。

▶CoNETSについて（http://www.conets.jp/）

CoNETSビューアでは，先生ごとにユーザーを登録することで，書き込み情報や履歴などをそれぞれに保有することができます。



※画面サンプルはすべて「精選国語総合」となっております。

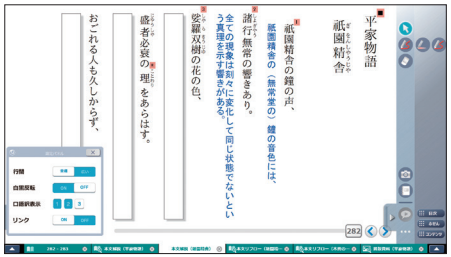
指導者用デジタルテキスト　〈校内フリーライセンス〉※1			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版	教科書利用期間一括※2	40,000円+税	DVD-ROM / ダウンロード
Windows版 単年度ライセンス	ご購入年度末まで	18,000円+税	DVD-ROM / ダウンロード

学習者用デジタルテキスト　〈1端末1ライセンス〉※3, 4			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版 / iOS版	教科書利用期間一括※2	1,500円+税	ダウンロード

※1 校内のすべての端末にインストール可能です。なお，価格は1学年の価格です。
※2 収録されている検定教科書の使用期間中はご利用いただけます。
※3 教師用デジタルテキスト購入校のみ購入できます。
※4 インストールする端末（1端末）ごとにライセンス料金をお支払いいただきます。

指導者用 豊富なコンテンツで授業をサポート

■ 本文解説（古文，漢文）



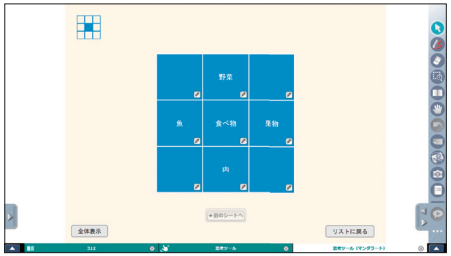
本文の口語訳のon/offができます。マスクをはがしながら表示することもできます。

■ コンテンツ一覧



「フラッシュカード」「図版資料」「人物相関図」など，さまざまなコンテンツを収録。

■ 思考ツール



デジタルテキストオリジナルのコンテンツも多数収録しています。

■ オンライン辞書



授業での提示に特化した指導者用の辞書サイトをデジタルテキストのリンクからご利用いただけます。

●動作環境 指導者用 （2020年1月現在）

	Windows版
OS	Windows 8.1 / Windows 10（32bit / 64bit 対応）※1
ブラウザ	Internet Explorer 11
CPU	Intel Core i3以上推奨
メモリ	4GB以上
空き容量	4GB以上（ビューア1GB+教材3GB）
その他	.NET Framework 4.5.1以降

※ Microsoft, Internet Explorer および Windowsは，米国Microsoft Corporationの，米国およびその他の国における登録商標または商標です。
※1 Windows RTには対応しておりません。

動作環境や導入にあたっての条件等は，CoNETSのWebサイトにて最新の情報をご確認ください。 http://www.conets.jp/

学習者用デジタルテキストについての特徴や動作環境など，その他詳細な情報は三省堂教科書・教材サイトをご覧ください。
●体験版DVD-ROMのお申し込みはeメールにてご連絡ください。
eメールアドレス：info-tbdt@sanseido-publ.co.jp

★三省堂教科書・教材サイト
https://tb.sanseido.co.jp